

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	横浜市東部地域療育センター 児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	令和6年11月12日	～	令和6年12月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	94 (回答者数)	58
○従業者評価実施期間	令和6年11月11日	～	令和6年11月22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20 (回答者数)	20
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さんが安心してクラスに通園してくれている。そのベースには、特性に応じた職員の関りや環境設定、また清潔で心地よく過ごせる生活空間がある。	日々丁寧に記録とミーティングを実施している。その中でお子さんの心身の発達や特性に沿った支援が実践できるように、お子さんとの関わり方の見直しや教材教具を作成している。また過ごしやすくなりやすい環境設定を持続していくために、定期変更と適時変更を組み合わせ実施している。	今後もお子さんの支援に対する検討を重ねていく中で、経年劣化しているパーテーションなどの物品の購入と入れ替えを実施していく。
2	お子さんの発達や保護者の方のご意向などを鑑んで個別支援計画を作成し、説明をしている。	個別支援計画の作成にむけて日々の記録を丁寧にこなす中で、期ごとの評価に繋げている。またクラスミーティングにおいてお子さんの支援について検討し、児童発達管理責任者とともに作成をしている。	今後も日々の記録やクラスミーティングを丁寧に積み重ねていく中で、法令に沿った個別支援計画と評価表を再考し、令和7年度からの導入を目指す。
3	個人情報の説明や取り扱いを適切に実施している。	個人情報を扱う際にはそのレベルに合わせて、職員同士のダブルチェックや主任と園長の確認などを確実にこなしている。また保護者よりお預かりをしている書類は目的別に分類をして、全て鍵のあるロッカーに収納している。	今後も継続して個人情報の管理を維持していくとともに、療育中の荷物の入れ間違いがないように余裕を持って取り組み、確認をする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や幼稚園などの地域のお子さんとの交流をする機会がない。	お子さんの発達や特性などを鑑みると、行事的になってしまう地域との交流が必ずしも経験の積み重ねや広がりにつながるとは考えにくい部分がある。	現在実施しているクラス間での交流や全体行事などの経験を丁寧に積み重ねていく中で、お子さんが見通しをもって安心してイレギュラー的な活動に参加できるように丁寧に支援していく。
2	保護者同士の交流の機会が少ない。	お仕事をされているご家族や外国にルーツのあるご家族が増加している中で、保護者の方々の交流を見据えたプログラムをどのように展開していくか検討が必要である。	保護者の方に参加いただくプログラムの回数や内容などについて、検討していく。
3	クラスで過ごしているお子さんの様子を、写真などで保護者の皆さんに伝えられていない。	個人情報の保護や保護者の方の心情配慮などを優先としてきたため、写真撮影の機会や写真をお渡しする機会に制限を設けてきた。	現在、個人情報の取り扱い方や保護者の皆様の同意方法、またSNSの利用の是非などについて、検討を重ねています。